

## 行政改革推進委員会（第1回）における主な意見と意見に対する考え方

## 1 「施策103 防犯・交通安全対策の推進」について

No.	委員会での意見	意見に対する考え方【関係所管課】
1	<p>■ 街路灯費について、新設本数に対して、予算の執行額が高いのはなぜか。また、その理由を記載した方が良いのではないか。</p>	<p>■ 新設に関する予算計上の方法については、電柱共架式という道路上にある電柱等にLED照明を取り付け、街路灯を新設するために係る費用を計上している。しかし、新設する中には、既存の支柱を撤去する、または、支柱を新たなものに建て替える対応が必要なものがあり、新設のためにLED照明を取り付ける以外の費用が発生しており、新設本数に対し、執行額が高くなっている。</p> <p>「IV 事務事業評価」中に記載する内容には不適と考えるため、「V 施策の評価と今後の方向性」において、その旨を記載する。</p>
2	<p>■ 高齢者安全運転支援装置設置促進事業費補助金について、令和2年度と比較し、令和3年度は予算額が減少しており、補助件数も目標値に達していないが、どのように捉えているのか。</p>	<p>■ 令和2年度において可能な限り様々なアプローチを実施した結果、77台の補助制度利用があり、その実績から補助制度を利用するボリュームゾーンが75歳から79歳であると分析した。また、令和2年度から令和3年度にかけて新たに補助対象となった者は、64歳から65歳になった方のみであり、補助の利用者層ではない。それらを加味し、令和2年度実績77台の5割、40台を目標台数とした。しかし、当該年度の令和3年11月以降、新たに生産される国産車に設置が義務化されたことが大きく影響し、補助件数が伸びなかったと考えている。</p> <p>他自治体においても同様の状況であり、消費者動向からも本補助制度による充足は図られたと考えている。</p>
3	<p>■ それぞれの事務事業について、単発の事業と継続する事業を区別して、継続する事業については、累積値の掲載等、評価方法を検討してほしい。</p>	<p>■ 現在の行政評価シートのレイアウト上、事務事業についての評価は、単年度の活動指標という目標に向けた活動状況により評価するものであるため、継続的な視点での評価が困難である。累積値については、「I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況」及び「II 達成度指標の状況」に記載されており、その数値の推移等により継続的な視点で施策全体の評価につなげている。「II 達成度指標の状況」の達成度指標は、第2次総合計画に記載されたものであり、変更は極めて困難であるため、累積値を追記するのであれば、「I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況」と考える。評価を行う上で、必要な累積値については、現在の行政評価シートに記載があると捉えているが、不足がある場合や新たに必要と考えられる場合については、その累積値を記載する根拠や評価の視点等を十分に検討した上で、記載スペースを考慮し追記を行うのが適切と考える。</p>
4	<p>■ 防犯プレートやすぐメール等がどのように犯罪減少に寄与しているのか。</p>	<p>■ 地域犯罪防止に最大の効果があるのは、住民の目である。防犯プレートやのぼり旗等の様々な媒体による注意喚起、防犯カメラ、すぐメール、防災無線等の活用により、地域ぐるみの防犯体制の構築及び防犯意識の向上が図られ、結果として犯罪減少に寄与したと考えている。</p>
5	<p>■ 清須市内での自転車の交通事故者のうち、ヘルメットの非着用率はどの程度か。</p>	<p>■ 清須市内での自転車の交通事故者のうち、ヘルメットの非着用者83.3%である。</p>

2 「施策 303 高齢者福祉の充実」について

No.	委員会での意見	意見に対する考え方【関係所管課】
6	<p>■ 達成度指標の状況について、介護保険の要支援・要介護の認定率を抑えるという指標があるのは、多くの高齢者が健康であるのを目指すというようにもとれるが、支援が必要な方を低く抑えるのを目標としているようにもとれる。こういった理由でこの指標を採用しているのか。</p>	<p>■ 達成度指標「要支援・要介護認定率が20%未満である。」は、高齢者が支援等の必要な状態へ移行していないかを捉える指標である。ただし、支援等が必要でないということは、多くの高齢者が健康であるとも考えることもできる。</p> <p>本指標を活用しているのは、本市では介護予防事業として、高齢者が支援等の必要な状態へ移行しないよう、運動教室等（いこまいか教室、やろまいか教室等）の実施・運営支援をしており、その他介護予防事業も含め、施策の達成度指標としている。</p> <p>(参考1) 要支援・要介護の認定率 介護保険被保険者数に占める要支援・要介護と介護認定を受けた方の割合を指す。介護認定は、医療や福祉の専門家等で構成される認定審査会で医師の意見書等をもとに審議され、7段階の介護認定を判断する。</p> <p>(参考2) 本市における介護予防の定義 本市において、介護予防とは「清須市高齢者福祉計画第8期介護保険事業計画」において次のように定義している。 「高齢者が健康でいきいきした生活が送れるように、できる限り要支援・要介護状態に進むことなく、また、要支援・要介護と認定された場合でも、状態がさらに進行しないようにすること。」</p>
7	<p>■ シルバー人材センターの会員数が減っている理由を教えてください。</p>	<p>■ 会員数の減少の要因として、大きく2つ考えている。</p> <p>一つ目は、コロナ禍の影響により仕事へ出るのを控える高齢者が増え、会員とならない又は退会する人が増えていると考える。</p> <p>二つ目は、70歳以下の会員の減少である。これは、就業環境が変化しており、定年の引き上げにより60歳以上の方でも就労している方が増えていると考える。</p>
8	<p>■ シルバー人材センターについて、会員数以外の会員一人当たりの就業回数等の指標を設定してもいいのではないかと。</p>	<p>■ シルバーの仕事には、7、8月は行わない剪定、イベントでの就業、年間通して施設管理、公園除草等多岐にわたっており会員一人当たりの就業回数は、比較の対象にならない。</p> <p>しかし、それに代わるものとして「就業率」という指標がある。これは、就業した会員数を年度末の会員数で除したもので、令和3年度の就業率は81.8%、令和2年度は、80.2%である。この計算方法から、会員のうち80%の方がシルバー人材センターにより何らかの仕事に就業していることが分かる。</p> <p>この指標を活用することにより、シルバー人材センターの活動状況を会員数以外で示すことができるため、令和5年度の実施計画にシルバー人材センター費が事務事業に選出された場合には、本指標を導入する。</p>
9	<p>■ いこまいか教室等について複数回参加される方が多いと思われるが、新たな参加者を増やす手法について今後の方向性に記載してはどうか。</p>	<p>■ いこまいか教室の参加の勧奨については、様々な事業所や相談窓口で案内している。市民の方の口コミ等で会員数を増やす努力をしているが、新たな勧奨方法について模索する旨を評価シートに記載する。</p>

3 「施策 501 観光の振興」について

No.	委員会での意見	意見に対する考え方【関係所管課】
10	<p>■ レンタサイクルについて、主要な駅に設置した方が利用者は増えるのではないかと。</p>	<p>■ レンタサイクルは、元来企画政策課で名鉄新清洲駅を拠点に実施してきたが、利用者が極端に少なく、その運用経費も多額となること、また観光客の殆どが清洲城へ自家用車等で来場する方であることから、清洲城を拠点に自転車で周遊していただくことを想定し、ランニングコストをかけずに運用を継続できる形態をとるべきとの考えから、駅設置は考えていない。</p> <p>増設するのであれば、連携強化が必要であり、利用者ニーズがあると思われる「あいち朝日遺跡ミュージアム」と考えている。</p>
11	<p>■ 達成度指標の休日の滞在人口率について、コロナという外的要因の影響を大きく受ける指標を使い続けてもよいか。</p>	<p>■ 本指標の趣旨は、市外の観光者等が市内へ訪問し、観光地等に滞在しているかを評価するものである。そのため、新型コロナウイルス感染症の感染状況が見通せない中ではあるが、引き続き使用していく。ただし、本指標を使用する上で、数値の増減等については要因を精査する必要がある。</p> <p>また、今後、新たな評価指標を設定する際には、外的要因についても考慮し、要因分析を行う上での注意点を事前に捉えておく。</p>
12	<p>■ 達成度指標に満足度調査の数値が多く使われているが、満足度調査はどのような聞き方をしているのか。</p>	<p>■ まず、調査対象者の決定については、本市は70,000人弱の人口であり、そのうち20歳以上の市民3,000人を調査対象者として抽出し、調査した。居住地域や年齢に偏りが生じないように工夫した。</p> <p>次に、調査内容につきましては、各施策に対する満足度、重要度や市民の生活実感（市内の道路網が充実しているか等）、市民の行動実態等（住宅侵入盗への備えを行っているか等）を調査した。</p> <p>各施策に対する満足度、重要度については、調査表に施策名及び施策の展開を記載し、満足（重要）・やや満足（やや重要）・どちらでもない（どちらでもない）・やや不満（あまり重要でない）・不満（重要でない）の五段階評価で回答を求めた。なお、その施策で実施している具体的な内容については、調査表の中に記載をしていない。行政評価シート中の達成度指標に記載している「満足度」の数値については、満足とやや満足と回答された方の割合を合わせたものとなっている。</p> <p>市民の生活実感については、思う・どちらかと思う・どちらともいえない・どちらかと思うと思わない・思わないの五段階評価で、市民の行動実態等については、行っている・行っていない等、2つから5つの選択肢から1つを選び、回答できるものとした。</p>
13	<p>■ 清須からあげまぶしについて、協力店舗が7事業、9店舗ということだが、少ないか。</p>	<p>■ ご当地グルメは、本来行政主導で行われるべき性質のものではなく、飲食店やその集まり等が主体となって行うべき事業と考える。その意味から、からあげまぶしは観光誘客の一つのツールとして市内飲食店の賑わい創出に前向きな方に協力をいただき、スタートが出来たものである。今後の展開は店舗数増が理想ではあるが、その募集の機会には市観光協会が設定するため、その勧誘は積極的には行わず、あくまでも自発的に参加いただいた店舗を支援していくことが基本であると考えている。</p>